

略

一月十六日のオーブニングに始まり、十八日、十九日のワークショップに至るまで、これらの一つ一つのことか家族的な雰囲気の中が聞かれたこと、言葉の分からない私達でしたが、皆さんの笑顔に触れながら十分に楽しんでいるときと共にできあがったこと、何より有難いことでした。

オーブニングにいらした方、これまでにない七十有余名の数を数えたこと、その中にはこれまであまりいらしたことがない大学の教授の方の姿もあつたこと、これらのことはアーカイブの、これまで積み重ねられてきた成果がこの数字に表われていると思ひます。また、さまざまなお機嫌との信頼関係を築かれたこと、たのびていただく（素嶋外記念館の発展のため）の人徳によるところも大きいと思ひます。





かつたもので、特に初心者より「書道」を習いたいという  
声も聞いた時は、ワレウレウッポとやって本当にふのったと思ひ  
ました

展示については、スペースとの関係で二十作品は飾れないかも  
しれませんと聞いてありましたが、何本かの作品は日本へ持ち  
帰らなければならぬと覚悟して来ました。か、二室の空間  
を上午に使っていただきました、表紙の色、紙の色や大きさ等  
素適にレイアウトしていただきました。一つ一つの作品の  
しきり輝いて見えなくなりました。ありがとうございました

思い通りに搬入時に肝心の「百折不回」を念正四本  
の作品が届いていないことが分かった時は、即ち取り直し  
オーストリアのほうなるのだらうと、大変申しわけない気持ち

にすりまわしたため、さまざまの伴護をされ、それを何處となく  
手取り越えていらつしやうた。ペアーテ様の機転のきいたる配慮  
に大変喜ぶもちぬ。樂になり救われた気持ちになりまうた。  
オーポニシゲもワラウラウアも、ペアーテ様の思ひ描いていらつし  
やうた。構想が予想以上のものもあつたと喜んでくださう。私としても  
嬉<sup>うれ</sup>しい。また一結に來てくた家族も大變喜んでくれまうた。  
昨日(二月二十日)、家族四人でベルリン市内を觀光する中、  
フランケンバルケ内のすくすぼのホテルで、この成果に乾杯を  
しまふ。

さらに、フレンクフルトでの書展の話がきたのも、この「森島外  
記念館での書展のあつたればこそ」と思つていまう。

鈴鹿展の巡回展をやるように、この書展も以後百年間に

森島外

